

ロボット人材コンソーシアム

教室のロボット更新へ

総会 事業計画 設立時から使用し劣化



事業計画を決めたコンソーシアムの総会（秋田職能短大）

将来のものづくり人材を育てる「おおだてロボット人材育成コンソーシアム」（会長・佐藤義晃大館商工会議所会頭）の総会が12日、大館市の秋田職業能力開発短大で開かれ、ロボット教室と大会（8月23日）を盛り込んだ本年度事業計画を決めた。

プログラムづくりを通して県北地区の人材育成を図る目的で2013年度に前身組織を設立。市内の製造業、商業団体、金融機関、教育委員会、短大などで構成している。

2024年度事業報告で、設立当初から開催する教室の参加者数が初級13人、中級5人とどまり、減少傾向にあることが示された。3年ほど

前まで計50人が参加することもあったという。

佐藤会長は「減少傾向が心配」と話し、委員から「教材のロボットが古くなり、正確にプログラミングしても誤作動を起こすようになってい」「13年も使い、買い換えが必要」「新しいプログラムの内容なら、参加者に面白いと思ってもらえるのでは」と指摘があった。

買い換えは25年度に計画し、ロボット購入費29万円を予算に計上した。今後、購入やリース契約の更新手法、機種を検討する。数年でロボット技術が一新することから、定期的な更新が必要だとして「毎年予算を積み立てて」という意見も出た。

25年度事業計画によると、教室は初級、中級を合わせ定員30人。大会は大館カップ2025の名称でクラス別に開く。会場はいずれも同短大。大館少年少女発明クラブのロボット教室（12月6日）、交流会（3月7日）も予定している。